

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：32415

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16803

研究課題名(和文)日本人学習者の中国語外来語の認識－音訳表記固有名詞を中心に

研究課題名(英文)the Way for Japanese Learners to Identify the Transliteration Loanwords in Chinese

研究代表者

仇 晓芸 (QIU, Xiaoyun)

十文字学園女子大学・人間生活学部・講師

研究者番号：60637635

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 700,000円

研究成果の概要(和文)：中国語教育の現場で「文の中から外来語を見つけるのは難しい」という学習者の声をよく聞く。本研究は音訳表記外来語、特に固有名詞に焦点を当て、音訳外来語の認識難という問題を解決するため教材を作り上げた。作り上げた教材は主に四つの成果がある。特によく使われている漢字の策定、単語と単語の間にある見えないスラッシュを入れる。前後にくる単語の品詞をてがかりにする。単語になれる文字となれない文字を知ろう。これら認識用の規則と手がかりを使っていけば中国語の音訳外来語を認識しやすくなるに違いない。

研究成果の概要(英文)：Many Chinese learners are facing with the problem that it's difficult to identify the transliteration loanwords in Chinese when they are reading the articles. This research made a textbook and it has four results for solving this problem. 1.This research found 50 Chinese character are always being used as a part of transliteration loanwords. 2.It's better to have the slash between two words and it can help you to understand the word's boundary.3.Be careful about the words which before and after the transliteration loanword and also be careful about their part of speech.4.Try to know there are some Chinese characters can become a word, but some can't become a word.

研究分野：中国語教育

キーワード：語彙教育 中国語教育 外来語 音訳 固有名詞

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本人学習者の中国語外来語認識

筆者は外国語教育としての中国語教育の現場で「中国語の外来語はよくわからない」という学習者の声をよく聞く。

確かに、中国語の外来語は書記体系から見るとわかりにくいといえる。日本語の場合、外来語はカタカナで表記されることがほとんどである。(例：ナイフ、ワールドカップ) 表記から見るとすぐ外来語であることがわかる。一方で、中国語の場合、日本語のカタカナのように表音機能のみの書記体系がないため、ほとんどの外来語は漢字(“简体字”) で表記されている。一般語彙も外来語もすべて简体字で表しているため、確かに区別はつきにくい。特に少し長めの文章の中で、どこまでが一般語彙で、どこが外来語であるのかを認識するのはハードルのある作業である。

例文：

“带上你的家人，逃离上海炎热的夏季，来感受嘉年华的无限乐趣，做一次地道又幸福的澳大利亚人吧。”

日本語訳：「家族連れで、暑い上海を離れ、思いきりカーニバルを楽しみ、地元のハッピーなオーストラリア人になろう。」

(2016年上海の『新民晚报』から抜粋。なお、文中の「ハッピー」は一般語彙であるため、固有名詞音訳表記を研究対象としている本研究から見ると対象外になる。)

上記の文は初級の学習者はもちろん、中級の学習者にとっても決して簡単ではないといえるだろう。漢字、単語および機能語の意味がわからないと認識しにくいに違いない。なお、简体字は表意文字と言われがちであるが、表音性を全面に出している漢字も存在している。(例：“哈哈”、“哎呀”) 简体字の表音機能、表意機能両方を理解することが外来語認識問題において非常に大事である。

(2) 多種多様な外来語の実態

中国語の外来語は様々な種類がある。研究者によって分類法も異なっている。筆者は次の三種類があるとの見解を示している。

意識(例：“微软” Microsoft)

音訳(例：“谷歌” Google)

アルファベット混じり(例：“卡拉OK”カラオケ)

なお、本研究は音訳表記を研究対象としている。理由としては音訳表記が最も外来語らしくて、最も一般語彙とかけ離れているからである。また、アルファベット混じりのものより量的にも多い上、学習者にとってまた比較的認識しやすいと考えているためである。

(3) 二種類の音訳外来語

音訳外来語は一般語彙(例：“沙发” sofa)と固有名詞(例：“阿迪达斯” adidas)の二種類に分けることができる。

(4) 固有名詞に焦点

“沙发”のような一般語彙の音訳表記は教科書の中で紹介される機会は少ないが、取り入れられていることは事実である。しかし、固有名詞音訳表記はあまり教科書で取り上げられていないし、これまでの中国語教育の中であまり重要視されなかったといえる。教育現場で固有名詞の音訳表記が疎かにされている傾向があると言っても過言ではなからう。しかし、実際のコミュニケーションの中で、人名、地名、商品名、映画名など固有名詞が我々の生活の中で登場することが多い。それが通じないとコミュニケーションが続けにくいだけでなく、会話がそこで途絶えてしまう可能性も高い。例えば、中国の友人に「この前、シュワルツェネッガーの映画を見たよ。」と言っても、「シュワルツェネッガーは誰だろう？」と中国の友人が思うかもしれない。“施瓦辛格”(Schwarzenegger)を言わないと友人はどちらの俳優であるのかわからない可能性が高い。逆のケースも生じるだろう。「我看了施瓦辛格演的电影。」を日本の友人に言ったら、通じるだろうか。考えさせられることが少なくない。コミュニケーションの現場で、固有名詞の大切さが浮き彫りになった。もっと固有名詞に目を向けるべきだと筆者は考えている。このような背景を踏まえ、本研究は固有名詞の中国語音訳表記に焦点をあてている。

(5) 使用漢字の特徴と研究対象 A

中国語外来語全般の音訳表記使用漢字について、高名凱・刘正焱(1958)の『现代汉语外来词研究』が先駆的な存在である。また、近年史有为(2000)の『汉语外来词』は多くの側面から非常に詳しく述べている。石山(1974)によれば、“克尔斯拉林士”などの漢字が音訳表記によく使われている。外国固有名詞の音訳全般に関して、楊曉文(1998)は外国人男性と女性の名前にそれぞれ“夫、大、烈、林、森”と“娜、妮、娅、梅、梨”などが使われ、外国地名の場合、“雅、敦、典、伦、巴”などの漢字が使われていると述べている。更に外国女性の名前に“玛、丽、茜、莎、黛、茱、蒂、芬、琳”が使われる場合も多いようである(楊錫彭 2007)。また、外国地名に関して、荒川(2000)は詳しく述べており、独自の見解を示している。

筆者のこれまでの研究では厳選した外国人名、地名、ブランド名を対象とした調査の他、コーパスを用いて該当漢字とその前後の漢字の語(“词”)となるかどうかの共起関係を分析し、実際使われている漢字について探った(表1)。その結果、一部認識する際、手がかりとなるマーカーとしての漢字群を特定することができた。

更に、筆者の博士論文の中で、認識の手掛かりとなる漢字を分類し、具体的な113字を見出した。この113字を本研究の研究対象 A とする。

表1 筆者のこれまでの研究概要と明らかになった使用漢字

文献の時間、対象	わかったこと
仇(2010): 外国人名、地名、ブランド名	マーカーとして特徴的な漢字: 迪 诺 莱 莎 芬 玛 斯 敦 拉 巴 尼 尔 娜 吉 克 伦
仇(2011a): 外国ブランド名	「訳音表」に記載されていないが、実際に使われている漢字(53字): 乐 买 事 仕 佛 佳 列 力 口 可 地 土 奔 子 宜 家 强 彼 思 戴 捷 摩 施 时 易 柯 欧 歌 氏 洁 浦 爱 生 百 耐 联 能 芙 芳 虎 诗 谷 路 轩 逊 透 雅 雪 露 飞 香 驰 麦
仇(2012): 外国ブランド名	単独で語にならない漢字群(“散性関係使用漢字”): 萨 沃 尼 迪 森 欧 赫 尔 莱 柯 斯 逊 亨 玛 埃 奥 勒 浦 阿 诺 德 轩 兹 克 拉

(6) 研究対象 B

日本人学習者の中国語外来語認識難問題を解決するために様々な方法が必要であるが、日本人がよく知っている漢字、日本人が小さい時から習って馴染みのある漢字から着手することは筆者が大事だと考えている。この考えから日本人学習者の漢字に関する知識についてもっと見ようと思うようになった。

具体的に文部科学省が定めた学年別漢字配当表によると、小学校から中学校までの間、3,142個の漢字を習うのが基本である。この3,142個の漢字を本研究の比較対象Bとする。

(7) 認識ストラテジーと「散性関係」

これまで中国語母語話者である筆者は音訳表記固有名詞を認識する際、該当漢字に関する「心的辞書」、つまりどの漢字がどの字と共になら単語としてなりえるのか、またこの漢字とは絶対に共に現れないといった語彙知識の大切さを唱えてきた。また、音訳表記の使用漢字同士には筆者が「散性関係」と呼んでいる関係性があると考えている。「散性関係」とは、“稻谷”や“唱歌”のような漢字同士で一つの詞になるような関係性ではないものを指す。つまり、“谷歌”(Google)

の中の“谷”と“歌”のように一つの詞にならない関係を指している。さらに、認識する際、一般語彙の動詞、形容詞など品詞に関する知識も大きな役割を果たしていると述べてきた。

2. 研究の目的

上記様々な視点から述べた研究背景を踏まえ、本研究は日本人学習者の中国語外来語認識難という問題を解決するために、中国語外来語のうち、意識表記より外来語らしくて、量的によく使われる主な手法の一つである音訳表記に着眼している。つまり音訳された固有名詞に使われている漢字群(A)と高卒レベルの日本人が習得していると思われる漢字群(B)を比べ、両者の共通点と相違点を見出し、中国語母語話者が外来語を認識する時のストラテジーのデータを参考に分析し、漢字、単語(“词”)、品詞の種類など様々な面から認識方法を探り、「高卒レベルの日本人用の中国語固有名詞認識用手引」を作成することを目的としている。

これまで固有名詞、あるいは外来語に特化した中国語教育の教材がほとんどなかった。本研究で作り上げる教材が少しでも中国語の音訳外来語の認識に役に立ち、日本人学習者にとって重宝とされるような教材の作成を目指している。

3. 研究の方法

(1) 二つの漢字群の比較と漢字の選出

上記研究対象A(筆者の博論で明らかになった113字)と研究対象B(文部科学省が定めた学年別漢字配当表にある3,142字)を照らし合わせ、共通している漢字を取り上げた。選出した漢字は最もよく音訳表記の外来語に使われている。また、日本人にとって馴染みのある漢字であることも大きな特徴である。

(2) 自らデータベースの作成

音訳外来語の使用漢字と実態を調べるため、できるだけ新しいデータを使いたいという思いのもと、筆者は既存のコーパスを使うことより自ら二つのデータベースを構築する。実際、筆者は2016年に中国の北京市・上海市に行き、一定の期間内に毎日該当の新聞を買い、情報を収集してきた。新聞の全体を読み、必要だと判断した音訳表記外来語とそれが含まれている文章をパソコンに入力した。一つは『北京晩報』(2016年4月~6月)の新聞記事を中心に作ったものである。もう一つは上海の『新民晩報』(2016年7月~8月)の内容を中心としたものである。こちら二つの新聞はそれぞれ中国の大都市である北京、上海で最も市民の生活に近い新聞であり、発行数の量も非常に多い。ここに収録されている音訳外来語は今、まさに中国社会で生きている外来語である。

(3) データベースで漢字の使用実態の分析

二つのデータベースを使って、音訳外来語の使用文字として最もよく使われている 50 字の使用実態を探った。それぞれどのような漢字と共に単語をなしているのか、文の中どのような特徴があるのか、前後に来る品詞の特徴とは何か、機能語や記号・符号からわかるものは何かなど色々分析作業を進めた。

4. 研究成果

(1) シンボルとなる 50 字の策定

研究対象を比較し、最も音訳表記外来語らしい漢字 50 文字(表 2)を策定することができた。これからの 50 字は研究対象 A の 113 字から日本人にとって定めた学年別漢字、さらに常用漢字とも照らし合わせた上、最終的に定めた漢字である。これらの漢字が含まれている文字列を見つけたら、基本、音訳外来語として疑ってよいという結果になった。

表 2 音訳外来語に最もよく使われている 50 字

鍵となる 50 字	地 生 时 子 家 能 可 事 当 高 力 门 科 特 利 安 口 基 强 路 保 西 思 爱 根 易 夫 马 士 劳 百 德 英 列 飞 佛 乐 福 丰 登 森 雪 诗 歌 洁 氏 麦 谷 梅 仕
--------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 音訳外来語認識用の教材作成

分析作業を通して得られたものを更に分類し、『どうやって見つける? 中国語音訳外来語』(未発行)をタイトルとしているものを作り上げた。今、こちらの内容を見直し、修正を加え、今後出版できるような準備をしているところである。以下が『どうやって見つける? 中国語音訳外来語』(未発行)の目録である。

- 序 中国語における音訳外来語の規則を知ろう
- 1 外来語に使われる漢字 二つの顔をもつ 50 字を手がかりにする
- 2 文章を単語ごりに区切る 見えないスラッシュを入れる
- 3 前後にくる単語の品詞を手がかりにする
- 4 単語になれる文字となれない文字

付録

- ・世界のトップブランドとその中国語名
- ・中国人の苗字(『百家姓』)

(3) 教材の特色

中国語語彙教育において固有名詞はこれまで疎かにされてきた。外来語の認識において、漢字だらけの中国語の文の中、どのようにして音訳表記固有名詞を見つけていくか

という問題がずっと潜んでおり、多くの学習者を苦しめてきた。本研究で作りに上げた教材は中国語母語話者である筆者がこれまでの自分の研究結果に基づきながら、データベースに基づいた分析を進み、認識するためのヒントを明らかにした。使用漢字の特徴および文中該当音訳表記と隣の単語や漢字の間に「見えないスラッシュ」があることを述べた。また、「散性関係」に基づき、単語になれる文字となれない文字の存在も学習者に明示した。本書の成果である教材は日本人学習者の中国語音訳表記外来語の認識難問題に大いに貢献できるだろう。

(4) 今後の課題

本研究の中で色々足りないものがある。例えば、中国語外来語を認識する上で他の視点がないか。更に文法的な掘り下げをしたほうがいいという意見もきくとあるだろう。それらのことを今後の課題としたい。更に、今後の展開として、もっとジャンルの数を増やし、各国の大統領など有名人の名前、映画名、書名など異なる種類の音訳表記の特徴を分析したら新たなものを見つける可能性があるかもしれない。また、意識表記である外来語にも焦点を当てる価値があるだろう。意識表記のほうが中国語の一般語彙と意味的に「同じ世界」にいたので、認識方法もきくと音訳表記と違うだろう。そこを研究するとまた面白い発見があるかもしれない。

<引用文献>

- 荒川清秀「外国地名の意識-「剣橋」「牛」「聖林」「桑港」」『文明 21』第 5 号、2000
- 石山曙生「中国語における「借詞」の表記法について-英語よりの外来語を中心に」『北海道駒沢大学研究紀要』第 8 号、1974、1-16
- 高名凱・刘正焱『現代汉语外来词研究』文字改革出版社、1958
- 史有为『汉语外来词』商务印书馆、2000
- 楊曉文(1998)「中国語の音訳外来語と日本語のカタカナ語」『パイディア教育実践研究指導センター紀要』第 6 号、1998、59-65
- 楊錫彭『汉语外来词研究』上海人民出版社、2007

5 . 主な発表論文等

6 . 研究組織

(1)研究代表者

仇 曉芸 (Qiu Xiaoyun)

十文字学園女子大学・人間生活学部・講師

研究者番号：60637635